

ガンコ親父の

昔々、とある山村に松次郎という長老がいた。その村では農作物の収穫も毎年順調で、食べ物に困ることはなかった。村人は幸せな毎日を過ごしていたが、今年は天候異変に襲われ、全く雨が降らなかった。

すぐに貯め池は枯れ、小川は流れを失った。野山は潤いを消し、田や畑に必要な水はもちろん、生きるために必要な飲料水さえも少なくなっていた。「台所の水瓶も残り少なくなつて、これじゃ生きていけない」と、村中に絶望にも似た嘆き声は響いた。

松次郎は「みんな、よく聞いてくれ。こうなったら雨を降らしてくれよう、神様をお願いする他はない」と皆を説得。それから村をあげて三日三晩、太鼓や拍子木を打ち鳴らして雨乞いの声を上げた。しかし、無情にも神様に声は届かず、雨が降り始めることはなかった。

村人たちは「もう、我慢も限界だ。村を捨てて新しい場所に移ろう」と荷造りを始めるものも出てきた。責任を感じた松次郎は最後の頼みとばかりに「もう一日待ってくれ、水を探してくるから」と村人達に言った。

早速、松次郎は里を出て水探しに出かけた。林や森に分け入ったが、湧き水や泉などは探し出せなかった。眺望が開けた山に登って見下ろすと、谷沿いに緑が濃い場所があった。水の可能性に賭けた松次郎は山を駆け下り、森に入った。しかし体力が尽きかけていて、喉は渴き、足元はふらついた。水の音だと喜んだら葉ずれの音。幻聴に悩まされて探し続けたが、木の根につまずき、頭を強打した。

気絶していた松次郎の顔に冷たい水滴が一滴落ちた。目を覚ましたら、見たこともない大きな池が現れた。そして池の淵にいた一匹の年老いたナマズが「お久しぶりです。やっとあなたに出会えました」と声をかけてきた。「あなたが探している水がここにはあります。しかし差し上げたくても村に一日で届けることは不可能です。なんとかして上げたいのですが、なんともなりません」と悔しそうだ。しかしすぐにナマズはヒゲを撫でながら何かが閃いたように「そうだ」と声を上げた。

「忘れていましたが、私は地震をコントロールすることの他に、雨雲を呼ぶこともできるのです。それでは、早速雨雲を村に送りましょう」と神秘的な顔で念力を送った。

松次郎が村に帰り着くと黒雲が現れ、大粒のヒョウと共にザッと雨が降ってきた。感激した村人の一人が「長老に例のものを差し上げろ」と叫んだ。特別な時に皆で祝うために保管していた「しまっちゅ伝蔵」だった。ヒョウが混じった冷水で割った酒は信じられない程に美味かった。村人達は甕や壺を出してきて、笑顔で雨水を受けた。

松次郎は幼い頃、池のそばで捨てられ、干からびそうになっていたあの小さなナマズのことを思い出した。そっと池の水の中に返してあげたのだった。どんな小さな命に対しても、大切に向きあってきた人には、きっとハッピーな結末が訪れるはずであるというお話。ただ、自然災害はどんな形でやってくるかもしれない。防災準備だけは忘れなく。



しまっちゅ伝蔵
でん ぞう

奄美黒糖焼酎

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の肥沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997(65)0251



25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造(株)はこの活動を応援しています。



「ナマズ」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。